

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 7月3日は、前線が東シナ海から九州北部付近を通って本州の南岸にのびる。低気圧が日本海中部に進む。高気圧が千島近海に移動する。
- 4日は、前線が黄海から西日本付近にのびる。高気圧は千島近海をゆっくり東へ移動する。
- 5日から7日にかけて、前線が日本海を北上する。高気圧が千島の東を東へ移動する。
- 期間を通して、太平洋高気圧が日本の南に張り出す。

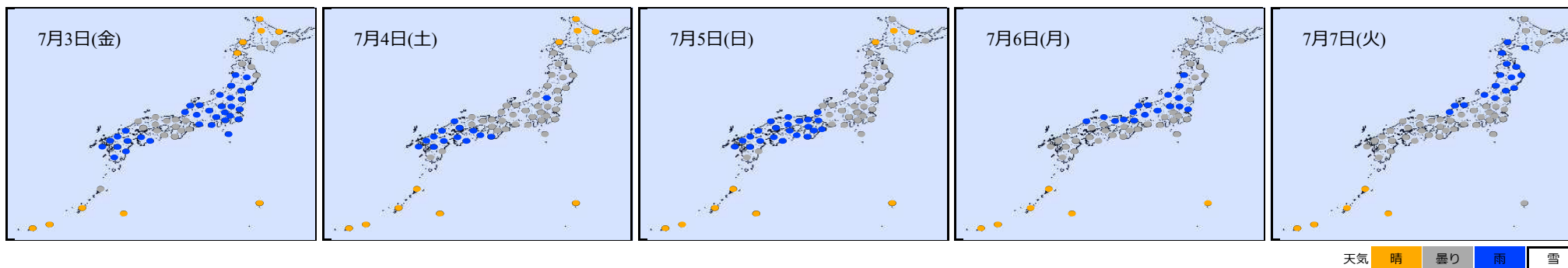
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 7月3日頃にかけて、西日本では、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

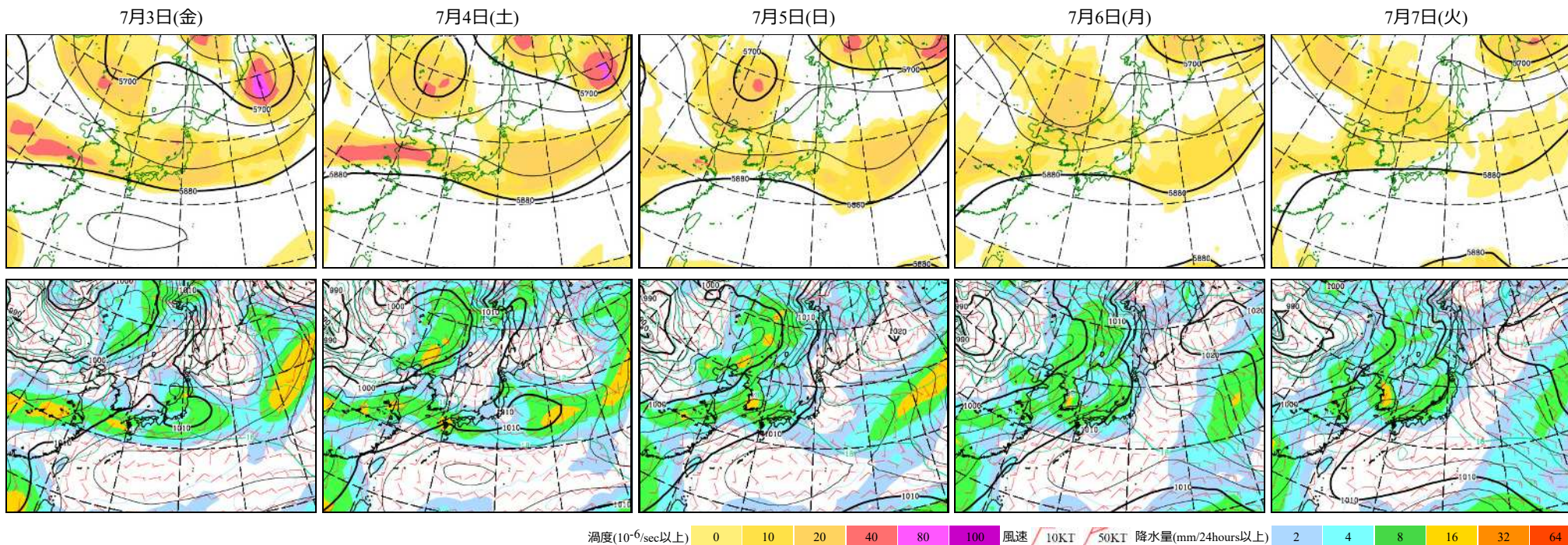
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

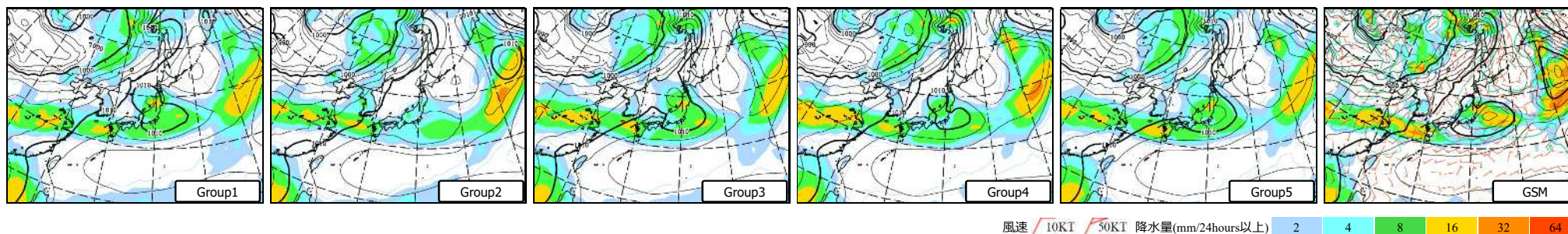


- 北海道地方は、晴れまたは曇りの日が多いが、7月7日は雨の降る所がある。
- 東北地方、東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月3日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、7月3日は日本海を進む低気圧が明瞭となった。
- モデル間の差は、期間の中頃から大きく、4日は日本海の上空にトラフが進むものとリッジが進むものがあり、4日から5日にかけて本州付近の前線の位置等にはばらつきが見られる。
- スプレッドは比較的小さいが、5700mの特定高度線のばらつきは大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。